



《本の森》のバトンタッチ

2020.1.22

昨年12月のMMP全体会、《私のドア》の《本の森》についてのグループ協議、私にこんな意見が聞こえてきた。「ライブラリーは改装され、素敵な環境に整備された。でも、それをどう使っていくのか、まだ実践がない。みんなでいろいろな実践をしていきたい」

「改装を活かす実践に取り組もう」に、私はその通りと納得し、その前向きな姿勢にうれしくなる。

その教育的な価値とともに、私は次のようにも思うのである。それは・・・

改装には多くの人に関わってきた。校内の担当者、法人内の担当者・・・、そして、インテリア会社の設計や施工担当者（カラーのランダム配置のオーダーを受けたのは初めてだったろう。そういう初めてのオーダーを担当者も楽しんでいた、そう思う）・・・

多くの人たちの知恵と労力が費やされて、ライブラリー《本の森》の改装がなされた。

改装に関わった方々は、この改装がどんなふうに子どもたちを刺激し、どんな活動を作り出すかを、楽しみにしている・・・私はそう思うのである。「改装を活かす実践への取り組み」は、改装に関わった方々への謝意を表すことになる。

「改装の向こう側」に《人》を見ることができると、そういう感覚、想像力は大切だと思う。

改装に関わった実務担当者から《本の森》のバトンが私たちに渡された。そのバトンを落とすことなく、つないでいきたい。



☆From the Andromeda☆